

長野賢一先生を囲む会にご出席の皆様

春寒の候、皆様 ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

本当ならばこの会に父も出席させていただきたいところではありましたが、

昨年12月6日、82歳の生涯を終えました。くも膜下出血でした。

父生前中は皆様には大変お世話になり ありがとうございます。

昨年のこの会への出席が最後になりましたが、皆様とお目にかかれたことを大変喜んでおりました。帰り道、「今年で最後だろうな～」と申しましたので、「来年も付き添うから、行こうね」と話しておりましたに、非常に残念です。

父は、小倉高校野球部で甲子園に出場したことが本当に嬉しかったようで、よく自慢しておりました。

皆様と汗を流し、練習に明け暮れた日々のこと、

優勝旗を初めて九州の地に持ってきたこと、

優勝パレードが恥ずかしかったこと、

福嶋さんが甲子園の土を初めて持ち帰った方だということ、

父は身体が小さく、すばしっこかったので、小倉のねずみと言われていたこと

などいろいろと話してくれました。ただ、父の実家が私の産まれる随分前に火事になり、当時の写真や思い出のものは焼けてしまったので、当時の姿は殆ど目にすることができず、想像しながら聞いておりました。そして、仲間の大切さ、努力すること、

何事も一生懸命に頑張れと私や孫たちに教えてくれました。

50年ほど前に怪我をして右足が曲がらなくなりましたが、子供たちに野球を教えたり、

審判をしたり、本当に好きだったのだなあと改めて感じております。

年を重ねてからは、花や野菜作りを楽しんでおりました。

今頃は、お仲間の皆様との楽しい思い出を持って、先に天国でまっておられる方々と同窓会をしているのではと思っております。

先生のお祝いの会に大変失礼かと思いましたが、皆様への感謝の気持ちをお伝えいたしたく、この様な形にさせていただきました。

どうぞ、何かの折、父を思い出していただけたら幸いです。

皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

乱文、お許し下さいませ。

2015年3月12日

塚田英雄の娘 ゆき